

テーマ① 砂丘と青松の町



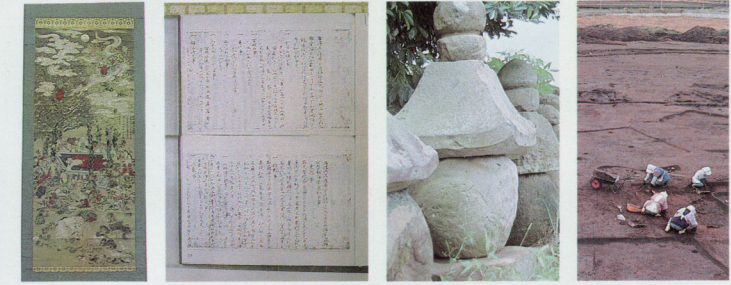
日本三大砂丘のひとつに数えられる吹上浜、全国的にめずらしい砂丘湖など、風光明媚で美しい自然に恵まれています。また、神話や伝説も多く、文化財が豊富です。

テーマ② 吹上のあけぼの



町内には、縄文から弥生・古墳時代にかけて、人々が活躍した舞台が数多く残されています。なかでも黒川洞穴(先住民住居跡)や辻堂原遺跡(集落跡)は、広く知られ、白寿・入来遺跡には支石墓(ドルメン)が残されています。

テーマ③ 吹上を拓いた人々



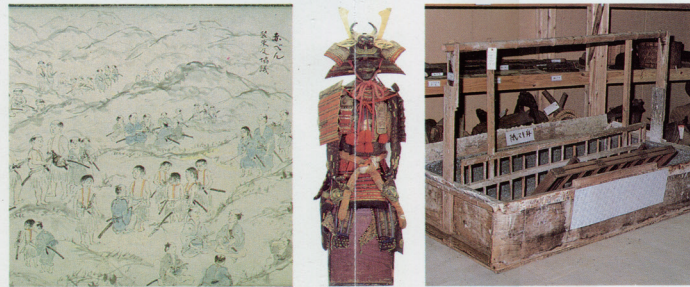
荘園時代の伊作庄は伊作平氏が支配、降って島津氏が地頭となり、島津久長が伊作城を築き、伊作島津家の初代となりました。日置南郷(永吉)は桑波田氏が領有しました。

テーマ④ 島津氏と三州統一



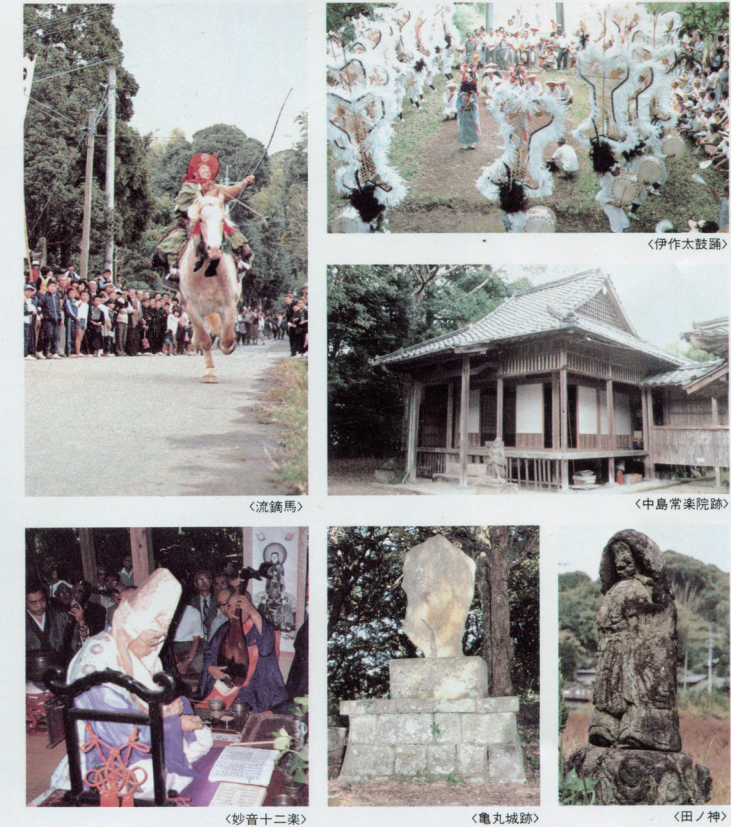
伊作城は、島津中興の祖といわれる忠良(日新公)、九州統一にのり出した義久・義弘などの誕生の地であり、三州の統一を成し遂げた貴土もこの地で育ちました。

テーマ⑤ 武士と庶民の暮らし



藩政時代の吹上町は、伊作郷と永吉郷に分れ、郷土は農耕のかたわら紙漉きや大工・左官・木挽ぎに従事しました。農民は門ごとに耕作させられました。年貢や公役に苦しみましたが、力を合わせて生活し、その中にも多くの郷土芸能や伝統行事を生み出しました。

テーマ⑦ 指定文化財



〈伊作太鼓踊〉

〈中島常楽院跡〉

〈田ノ神〉

テーマ⑥ 近・現代の暮らし



明治22年伊作・永吉村が発足、大正11年伊作村は町制を施行、昭和30年両町村が合併して吹上町となりました。多くの戦争を経験し第二次大戦後は産業や交通通信の発達で、人々の生活も大きく変わりました。



吹上町歴史民俗資料館全景

〈流鏝馬〉

〈妙音十二楽〉

〈亀丸城跡〉